

令和5年度 学校運営協議会評価書

1 自己評価全般について

本年度、学校長が変わられ新たな教職員体制の元、これまでの学校運営協議会の良い点を引継ぎ、常に改善を求めてきた結果が、今年度の成果につながっているものと考えます。

「しあわせの学校をつくる」という学校教育目標を、教職員はもとより、子ども、保護者、そして地域の方々へと着実に共有を広げるなかで、地道に一つ一つの教育活動を実践推進してきた成果が、目に見えて現れてきたことを感じます。熟議の中でも、子どもたちから「こんにちは」と声をかけられたこと、また地域学習の発展として「しあわせの学校」にするために自分たちにできることは何かと考え行動に移していく姿など、まさに主体的に学び、行動する子どもの姿であると考えます。



取組事項1については、「書く、話す」場の設定や「書きたい・伝えたい」と感じる活動を地域とともに積み上げていき、自己有用感や自尊感情を培っていくことで主体的に学ぶ喜びを実感できる授業づくりの推進を今後も望みます。

取組事項2については、「しあわせ」の学校づくりについて、子どもたちが感じ取り自分たちにできることは何かと考え、学校内外に発信していく姿や実現していく姿がありました。本年度の一番の成果は、子どもたちが考え行動する姿が見えてきたことであると考えます。今後もさらなる充実を期待します。

取組事項3については、まちづくり協議会の中で担当委員を置くことで、年次計画に基づき、学校と地域でつくる子どもの学びを生み出し、継続を可能にする方向性が生まれ、本協議会の最大の強みとなりました。今後も、一つ一つ継続していくことが重要であると考えます。

子どもたちの変容が見え始め、関係する者はやりがいを感じています。委員は少しずつ変わっていきませんが、着実に継続発展できるよう子どもたちだけでなく大人も地域への顔出しを増やし、地域と学校双方の協働活動を進めていきたいと思います。

2 学校から提示された「課題」や来年度への方向性について

熟議「校外学習や体験学習を通して育てたい子どもの姿」では、体験することを楽しんでいる姿や、新しいことを知る喜びを感じているなど、体験を通して自信を持つ子どもが増えてきている現状を確認しました。また、学校や地域の願いを踏まえ、さらに育みたい力として応用力や臨機応変に対応する力、自分の言葉で話す、自己を表現する力など、全教職員と委員で課題意識を共有し、それぞれが果たす役割を確認できました。学校長の言う「知識を知恵にかえて行動する子どもの姿」の実現を目指して、一歩ずつあせらず無理をせず、進めていくことが大切であると考えます。

昨年度の熟議において「子どもの思いや意見」は反映されているかとの課題が生まれ、場の設定を期待しましたが達成できなかったことは残念でした。来年度は、6年生と委員が一堂に会した形での場の設定など、工夫することで実行できるとよいと考えます。

まちづくり協議会組織の中に学びを推進する担当委員が位置づけされたことにより、継続と発展が望まれる強みとなっています。ウィンウィンの関係をさらに広げていけるような取り組みの推進が期待されます。

3 その他

教科担任制の導入で小規模な学校でも変化が生まれています。6～7学級での学校運営は難しさがありますが、働き方改革と併せて様々な工夫や意識改革を進められることを期待します。